



せんだんの木



令和6年12月3日 校長 各務 至

岩野田北小を**ぽかぽかことば**でいっぱいになろう！

「体育の授業で応援していたら、〇〇さんに『ありがとう』と言ってもらえてうれしかったです。」「給食当番で片付けがたいへんで困っていたら、〇〇さんが『手伝おうか』と声をかけてくれてうれしかったです。」

かがみの会（帰りの会）で子どもたちが話している一例ですが、このやりとりは、児童会が企画した取組でもあり、その成果を掲示

物にシールを貼って表しました。いわゆる「よいこと見つけ」と少し異なるのは、次のように、やりとりが双方向であることを取り上げている点です。



体育でなかまを応援 ⇔ ありがとう ← うれしかった

給食当番で学級の片付け ⇔ 手伝おうか ← うれしかった

高度なやりとりではあるのですが、紹介する側もされる側もニコニコになります。このように、お互いを認め合い、大切にしていくなかまであることを自覚する場面をつくっていきます。

学校人権教育研究会の協力校として

11月14日（木）、近隣の小中学校の先生方に、4年2組と5年1組の授業を見ていただき、研修する機会がありました。4年2組では、算数「倍とかけ算、わり算」で、2種類のゴムのどちらがよく伸びるのかを比べました。



㉞ 5cm → 15cm

㉟ 10cm → 20cm

さて、いかがでしょうか。㉞が正解ですが、見た目の長さではなく、もとの何倍になったかを考えることがポイントです。そして、これを4年生なりに、根拠をもち筋道を立てて説明することが人権教育としてのねらいになります。この大切さを学ぶことが、事実に基づいて物事を見極め判断していく力につながりますし、「うわさ」によって人柄を決めつけないことにもつながります。

5年1組では、総合「高齢者福祉施設を訪問しよう」で、子供たちは1回目の訪問を踏まえて、2回目の訪問での活動で「高齢者の方々にもっと楽しんでもらおう」と話し合いました。その中で、「喜んでいない感じがしなかったから、本当は、ばばぬきのルールを知らなかったのではないかな。」「的あてゲームは難しいかもしれないよ。施設の方に聞いてみたらどうだろうか。」などと、5年生なりに、高齢者の方の表情や会話などの様子を思い出し、相手の立場から考えました。



まだまだ自分の立場や基準で物事を考えがちで、仲間と衝突することも多い年代ですが、学校では、こうした学びを繰り返していき、多様な人たちと協働していく力をつけていくことを願っています。

このように、学校では様々な機会をとらえて、人権教育に取り組んでいるところです。また、岐阜市は、11月11日～12月10日が人権尊重推進強調月間となっておりますが、これに合わせて学校でも、12月3日（火）いじめを見逃さない日、12月6日（金）ひびきあいの日（活動）を通して、人権教育を推進してまいります。